

令和5年度 第3回学校運営協議会 議事録概要

日時 令和6年2月15日 15:00~16:30

場所 大阪府立堺工科高校 会議室

出席者（委員）

大阪工業大学教授 皆川 健太郎

大阪公立大学教授 土井 智晴

株式会社ダイネツ係長 西尾 真由美

大仙連合こども会 玉城 優

堺市陵西中学校長 村田 政教

堺工科高等学校教員（事務局）

東 秀行（校長）・佐藤 義勝（教頭）・義永 高德（事務部長）・

小寺 雅仁・安井 隆嘉之・瀧澤 縁・阪本 雅一・神前 和博

伊豆田 展弘・真田 正樹・吉井 恭平・木村 唯那

1. 開会のあいさつ（校長）

- ・学校の現状について

11月に工学系大学進学専科の設置が決定。

現在、カリキュラム編成のPTを発足。数学はⅠⅡⅢABC、国語は論理国語、理科は化学物理を中心に編成予定。工業科目は25単位必要だが、31単位で実験・実習を多めに設定する予定

- ・課題研究発表会について

2. 学校経営計画等について

(1) 令和5年度学校経営計画の自己評価について（首席）

ア. 人間力育成について

- ・主体性の育成に関して、観点別学習状況の評価研修会を12月に1回実施
- ・生徒指導の充実に関して、遅刻5回以上の生徒数は全体の19パーセント。0回の生徒は全体の47パーセント
- ・支援教育の充実に関して、特別支援教育に係る教員研修の参加者アンケートで肯定率100%

イ. 工業教育の充実

- ・専門性の向上に関して、資格取得者のべ人数800人には届かないであろう。
- ・年度末の救命救急講習が実施できない。
- ・ジュニアマイスター取得は52名。
- ・全国製図コンクールで最優秀特別賞を7年連続受賞
- ・ものづくりコンテスト近畿大会化学分析部門3位。
- ・マイコンカーラリー近畿大会ベスト16

- ・課題研究発表会での外部評価 100%。来年度も外部会場でやりたい。

【委員より質問】外部の評価とは

【首席】会場において外部の方に参加していただき、評価を受けた。

【校長】（広報活動における）小中学校への出前授業の紹介あり

ウ. 地域との連携

- ・堺・高石地域の地場産業との企業連携により、三系合同でいちごの水耕を課題研究として取り組んだ。

【校長】園芸部のフラワークラブ参加やボランティアを紹介

エ. 教員の資質向上

- ・機械系において他校を含めての技術研修を行った。

(2) 令和6年度学校経営計画（案）について（校長）

- ・中期的目標については大きな変更なし。以下を加えたのみ。

2（1）エ 再編整備計画として、令和7年度開設予定の工学系大学専科の教育課程作成と、中学生やその保護者・中学校教員に対し、その趣旨について周知する。

4（5）生徒の事故防止と健康安全教育の推進（特に熱中症とアレルギー関連）

- ・全体的に従来から行っていることを明示

- ・追加点：スマートフォンなど情報モラルの指導

→情報モラルに関する講習会を行う。

だいせん聴覚支援学校と協同学習を行う

入学生徒の全出身中学校へ訪問するなどし、情報共有を行う

【校長】工業教育の啓発・工学系大学専科のPRを兼ねて

地元で開催されるイベントやボランティア活動に参加する。[緑化祭・フラワークラブ等]

事故防止と安全教育 熱中症・食物アレルギー・薬物中毒について

- ・部活動も含めた働き方改革については協議事項で

(3) 定時制の課程の学校経営計画及び自己評価について

- ・実情に沿った計画。多様な生徒に対応した従来から続けていること。

(4) 進路状況について（進路指導主事）

- ・卒業予定者 182 名・学校斡旋就職内定者 139 名。一次受験の不合格者 10 名中二次合格者 7 名。残り 3 名は 1 名進学、2 名縁故就職に変更。公務員 1 名。大学 12 名（工学系大学 7 名・進学未決定者→一般入試継続中 1 名（合格 1））・短大 1 名・専門学校 20 名

- ・ 2月に2年対象の企業説明会
 - (5) 令和5年度 広報・志願者数について (教頭)
 - ・ 提案のあった企画にはすべて参加
 - ・ 第1回の志望者数は公表されていないが「225」
- 【校長】 200名前後の志望者の推移である。就職希望やものづくをしたいと考えている意志を持った生徒が希望していると考えている。

3. 協議

- ・ 部活動を含めた働き方改革の項目について
- 【校長】 2月に委員会からの教員の時間外の削減(学校部活動方針の遵守)指示あり。部活動のさかんな学校=時間外が多い。(相関関係にあり、数値も示している)それは当たり前のことである。個々の先生の取り組みが異なるので相対的な指針が必要で、「全時間数より5%減(総数削減)」で対応したい。
- 【委員】 ・ 部活動は生徒がやりたい場合支える教員が必要で、輪番制などを取っている。部活動は本分なのかという疑問もあるが、改革で減らせといても現場のことを分かっていない。体を壊さないようにするのが大切だ。若手で「やらされている」感覚になると支障が出てくること。
- ・ 子どもはどう思っているのか、先生はどう思っているのか。委員会には思いを大切にしてほしい。(部活動が)好きな先生にはやってほしい。子どもやりたいことはやらせてあげたい。
 - ・ 働き方改革を一律では無理がある。早く帰ると早く出勤する。個人の働き方があり、「休みたいときに休める体制」が必要。(大阪府の)部活動の方針の実現は無理。(競技)協会などの仕事があり、それが負担になっている場合がある。中体連と(競技)協会を離してほしい。中学校で「放課後クラブ」の設置。試合には出ないが生徒の気持ちは高い。部活動にも多様性が必要
 - ・ 答えはでない。部活動で公立と私立で(ますます)差がでるのでは。部活動を通して人間関係、意欲が作られる。部活動をやってほしい。上からの指示は達成できるのか。下に丸投げの状態だ。
- 【校長】 教員への呼びかけで達成できそうな数値である。外部の指導員はボランティアに近い。(予算など)施策が追いついていない。合同チームは生徒のアンケートの数値は良いが本来の目的とずれている場合がある。教員としては合同校両方の顧問が付き添いをせざるを得ない。委員会は片方の学校の教員だけでも可と言っているが。
- 【委員】 生涯スポーツとしての部活動を考えてもいいかもしれない。働き方を大きく見直す時期。そもそも人手が減少している。

目標はこれでいいと思うが「やめられないか」「一緒にできないか」「変えられないか」の見直しを進めることが必要。生徒にとっても教員にとっても学校にとっても良いのが一番

4. 事務連絡（教頭）

- ・委員の任期終了について
- ・来年度の学校運営協議会日程

5. 閉会のあいさつ（校長）

16時20分終了